

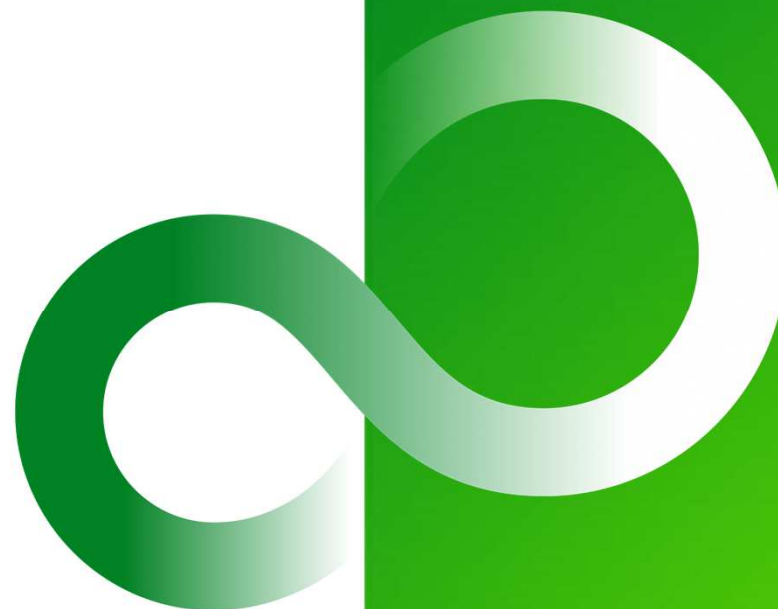
<別紙①>

スマートシティYAIZU推進方針策定業務
報告資料

2023年9月27日

富士通Japan株式会社

FUJITSU



<協議 1>
スマートシティYAIZU推進方針策定業務について
<進捗状況の中間報告>

目的・ゴール

焼津ならではの魅力を高め、持続可能な都市として機能するスマートシティの実現を目指す

1. 現状把握と課題整理を行う
2. スマートシティ推進体制やルール等の整備を行う
3. 具体施策を検討し、実現可能な推進方針・ロードマップを策定する
4. スマートシティ推進方針（本編・概要版）を作成し、職員や市民に周知する

推進方針 構成イメージ

1. 策定の背景、趣旨

- ・ 背景・目的
- ・ 国や県の動向
- ・ 検討の流れ

2. 位置付け

- ・ 各種計画との関係性
- ・ 総合戦略との関係性

3. 焼津市の現状

- ・ 本市の特性、地域課題
- ・ これまでの取り組み
- ・ 調査結果
- ・ 分野別の課題整理

4. コンセプト

- ・ 将来構想（ビジョンマップ）
- ・ 基本理念、基本原則

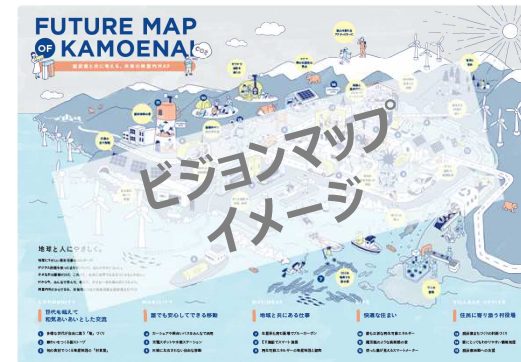
5. 推進の視点、分野

- ・ 推進体制
- ・ 重点施策
- ・ 取組方針

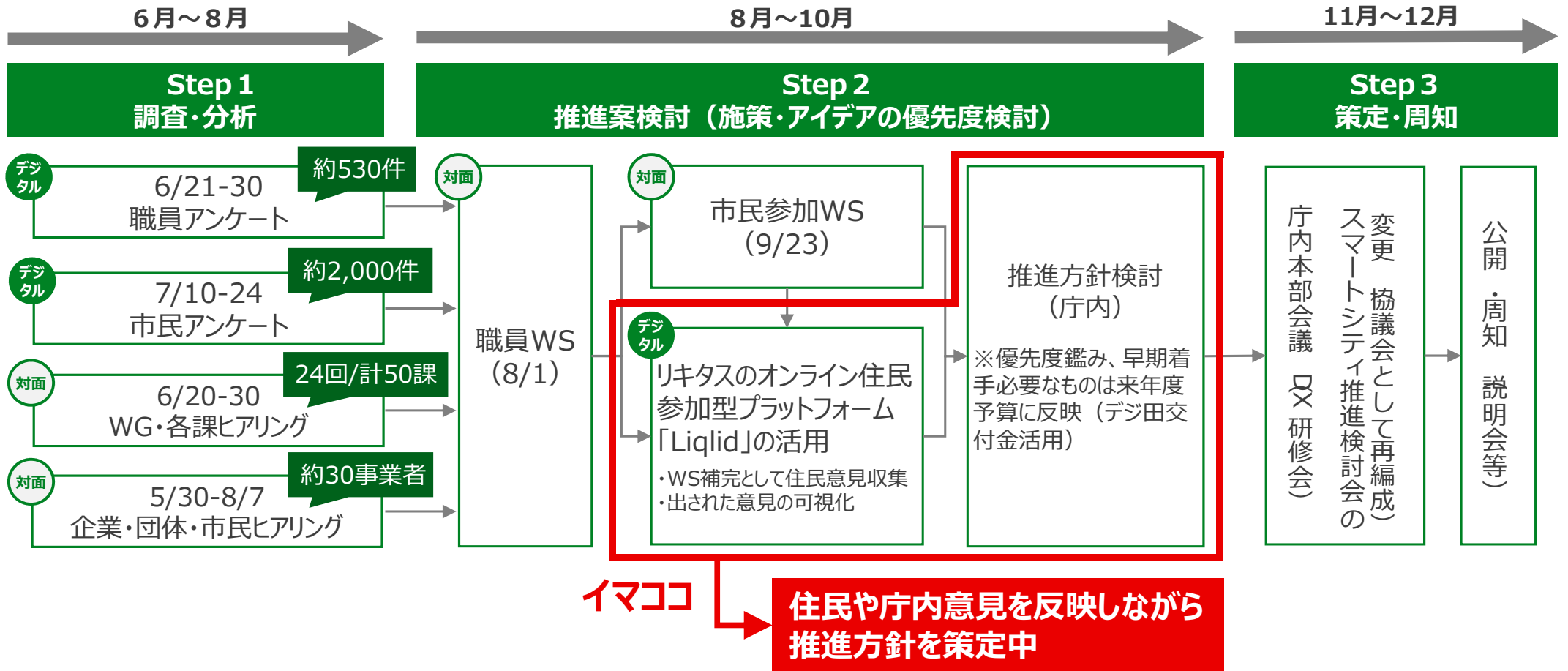
6. 取組内容、ロードマップ

- ・ 取組内容
- ・ 目標設定
- ・ ロードマップ

ビジョンマップ・動画の作成



スケジュールと進捗状況



調査・分析・ワークショップ

職員アンケート結果（実施期間：6/21～30）

約530件の回答があり、電子申請などデジタルを活用した市民サービス向上の意識は高い。
一方で、高齢者向けの業務・サービスはアナログでの継続を必要とする声や、庁内のデジタル人材育成を求める声が多い。

庁内職員の課題認識

スマートシティYAIZUの認知度・利用の促進

- ・ 職員の約半数は「スマートシティYAIZU」を認知
- ・ 利用・閲覧は33%のため、さらなる活動の周知で全庁活動へ

市民サービス向上への意識は高い

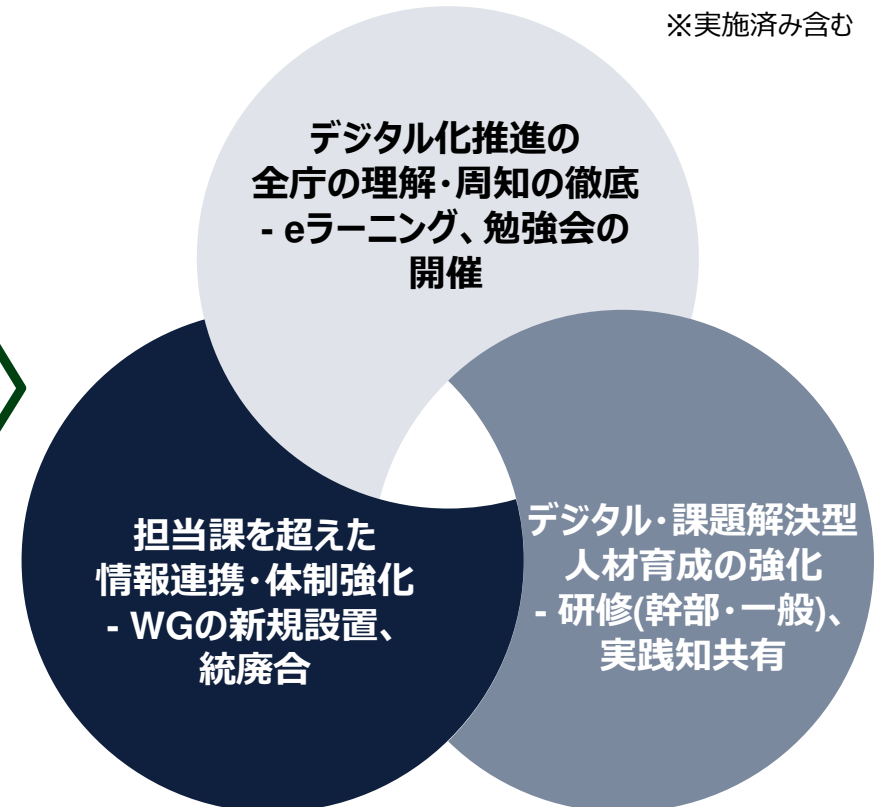
- ・ 個々の市民に最適な情報提供をしたいという声（思い）が多い
- ・ 市民・職員ともに行政手続きを効率的に進めるために、来庁前の案内、また担当課を超えた横連携が効果的

職員・市民ともにデジタル化人材育成が必要

- ・ 市民（なかでも高齢者）がデジタル利用が難しい声が多い
- ・ 庁内職員のデジタルスキル、課題解決人材の育成を求める声が多い

課題解決に向けたアクション案

※実施済み含む



市の課題解決にはデジタル化一辺倒ではなく、対面コミュニケーションも重視。更なる促進を行うためには、データ分析を担う運営者、公開データのルール整備に加え、事業者・市民へのITリテラシー向上支援が求められる。

WGの課題認識

デジタル化とアナログ(対面)のバランス

- 各WGのデジタル化・サービス化の計画、展開は順調に進捗
- アナログの重要性（集いの場、保健指導の訪問など）も意識されており、市民視点でデジタル活用の最適化が求められる

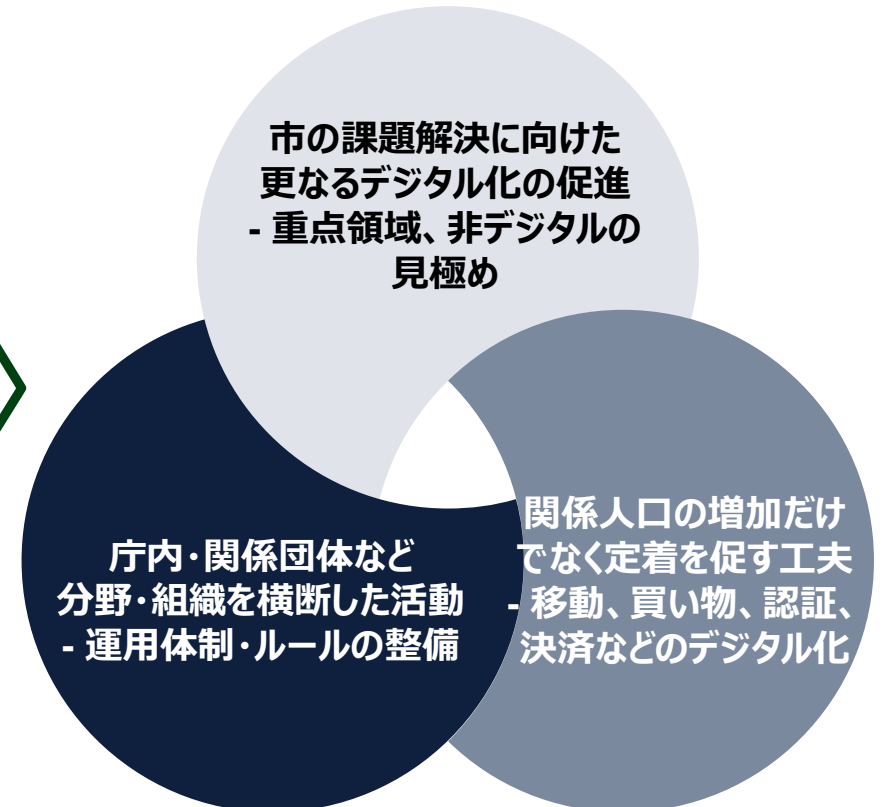
デジタル化促進に伴う運用体制・ルールの整備が必要

- データを活用したマーケティング・プロモーションを企画されている一方で、分析・レポート作成などの運営者が考慮されていない
- 様々な分野でデジタル化が進む一方で、システム運用の煩雑化、異なるWGで重複している施策があるため、今後整備が必要
- 今後焼津市外のデータ利活用を進めるにあたっては、各団体と協定締結のほか、データ公開のルール整備が求められる

まちづくりにかかわる人材の拡大、持続性

- ビジネスマッチング事例やワーケーション利用者は少しずつ拡大
- 焼津を好きになり継続的に関わる関係人口はまだまだ少なく、地図アプリ等で来訪者の利便性を高める工夫が必要

課題解決に向けたアクション案



職員各課ヒアリング結果（実施期間：7/6～14）

市民との手続き、対話に関してアナログとデジタルの共存は当面必要となる。いかにデジタル化で業務を効率化し、市民との対話時間を増やすか。あえてアナログを残す業務を見極め、それ以外はデジタルファーストで進めることが重要。

庁内職員の課題認識

デジタル対応が難しい市民のフォロー

- ・ 高齢者だけでなく、生活保護家庭など経済面でデジタル化できない市民への丁寧な対応が必要
- ・ デジタル化するだけでなく、市民の利用率をあげ、浸透させることが難しい
- ・ 職員はデジタルとアナログの両方に対応する必要があり、負荷がかかる

担当課間の連携が必要な課題対処

- ・ 縦割り組織の発想ではなく、横連携しながら課題を捉え解決する姿勢が求められている（例：子供見守りは内外の部門連携が必要）
- ・ ご遺族支援「こころ」のような一括で手続きできる仕組みを増やす
- ・ 外部との情報連携でデジタル化が難しい場合が多い（保育・幼稚園、学校、指定施設管理者、NPOなど）

データの蓄積と活用、情報発信

- ・ 市民アンケート結果、面談記録、ふるさと納税、などデータはそれなりに蓄積できているが、活用するための人材、スキル、時間が不足している
- ・ 広報やいづ以外でも、担当課で簡単に情報発信する仕組みがあるとよい

課題解決に向けたアクション案

LoGoフォームで市民に分かりやすい標準テンプレートを庁内で共有、活用

共通テーマに対応するWGを素早く、時限的に組成する制度の設置

データ連携基盤へのデータ蓄積送信と活用好事例の共有

市民アンケート結果（実施期間：7/10～24）

10代から70歳以上まで幅広く、約2,000件の市民の意見を回収（回答者の世代の偏りは今後の課題）。
焼津らしさを踏まえた新たなサービスを創出しながら、スマートシティYAIZUの認知度向上（市民の参画）を進める。

まちづくりに関する市民の認識

スマートシティYAIZUの認知度向上・利用促進

- スマートシティのポータルサイトを整備しているにも関わらず、「スマートシティYAIZU」の認知度が20%未満
- 今後具体的な方針策定とありたい姿によるサービス案の提示を通して、市民周知と参画促進を図っていく

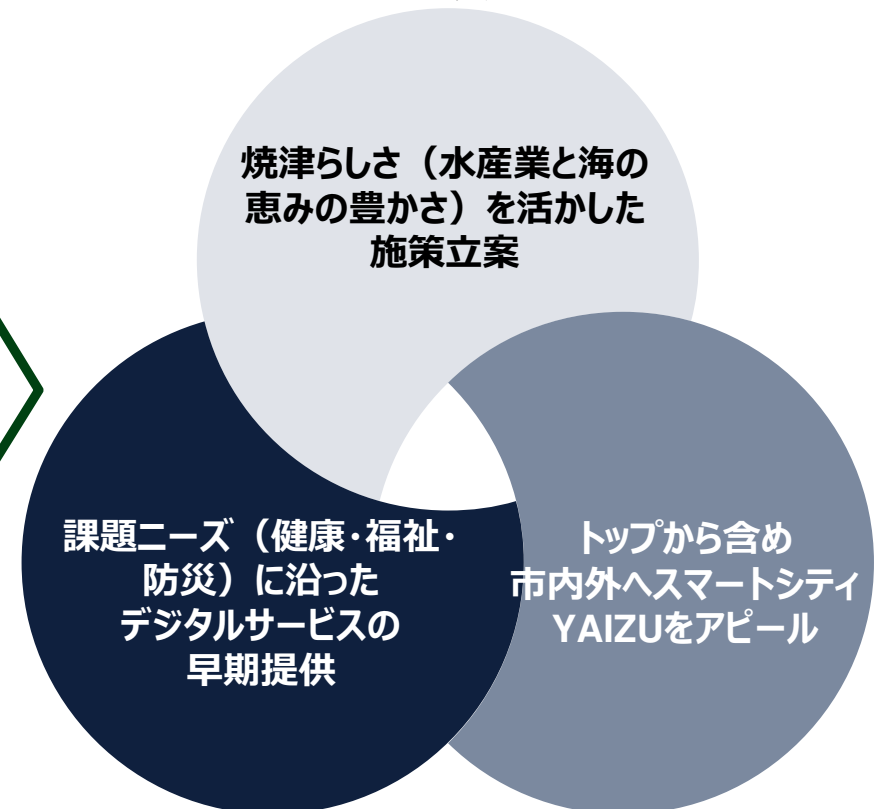
健康医療や福祉の充実、防災対策のニーズが高い

- 世代に関わらず健康・福祉に関する期待が高く、ニーズの深堀が必要
- 災害激甚化の中で、水害や地震津波の対策（対策済みについては周知徹底で安心感を与える）

焼津らしさは水産業 + αで考える

- 水産業が中心となることが再認識されたが、+観光、+賑わい、+産業振興、+住みやすさ、+食などで考えていくことが魅力を高める
- 例）焼津市内を周遊できる各地区における賑わい地点の創出と、それらをつなぐ交通手段の確保

課題解決に向けたアクション案



事業者ヒアリング結果（企業・団体）（実施期間：5/30～8/7）

まちづくりに貢献意欲のある事業者は多く、各々連携を望んでいるものの、旗振り役（繋ぎ役）がないのが現状。人流データなどデジタル活用しながら、市役所や各事業者が連携した施策推進が必要。

事業者の課題認識

焼津のよさを活かしたい

- ・ 焼津市への愛着、良さの理解は一定程度ある
- ・ 観光資源を市民が享受した上でのPRが必要
- ・ SNS等を活用した情報発信の検討

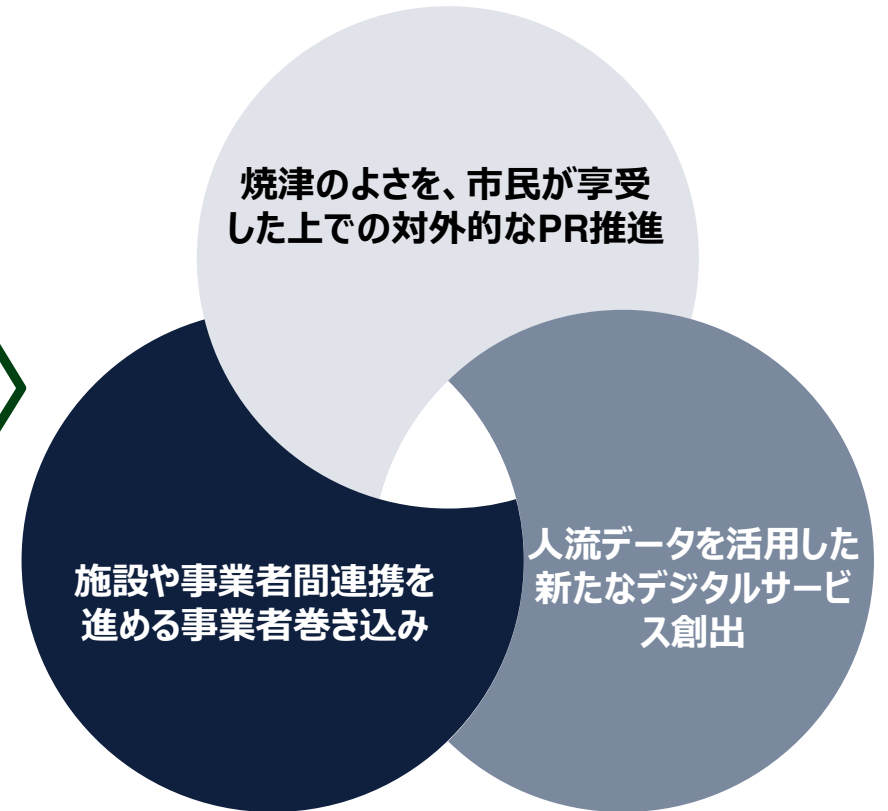
点と点を線で繋ぐ取組（施設間・事業者間連携）

- ・ 漁港や各観光施設がバラバラに点在しているため、施設間連携した上で新たなイベント実施など地域活性化の取組が必要
- ・ 市や企業間コラボによる、焼津らしさを活かした新サービスや新製品の創出
- ・ 地域コミュニティの場づくり（若者やシニア層、企業間マッチングなど）

人流データなど活用検討

- ・ デジタル化の進捗は事業者によって異なるものの、主要企業においては新たな取組を進めている
- ・ 人流データを活用した、観光アプリやスタンプラリー、クーポン発行などの地域活性化を推進できるとよい

課題解決に向けたアクション案



立地面や焼津ブランドにより拠点を構える企業が多いが、土地の有効利用や周辺環境の不便さ、情勢悪化などにより、移転や廃業可能性のある企業も少なくない。焼津港の復活をキーとした、中小企業への支援策検討が必要である。

事業者の課題認識

外国人人材のサポート

- ・ 住宅や日本語教育、コミュニティ施設づくりなどが必要

土地の有効活用や道路環境整備

- ・ 移転や建替えの事業用地確保支援 (調整区域や農地、養鰻池跡地活用)
- ・ 物流業務に際しての道路の痛み補修や白線整備

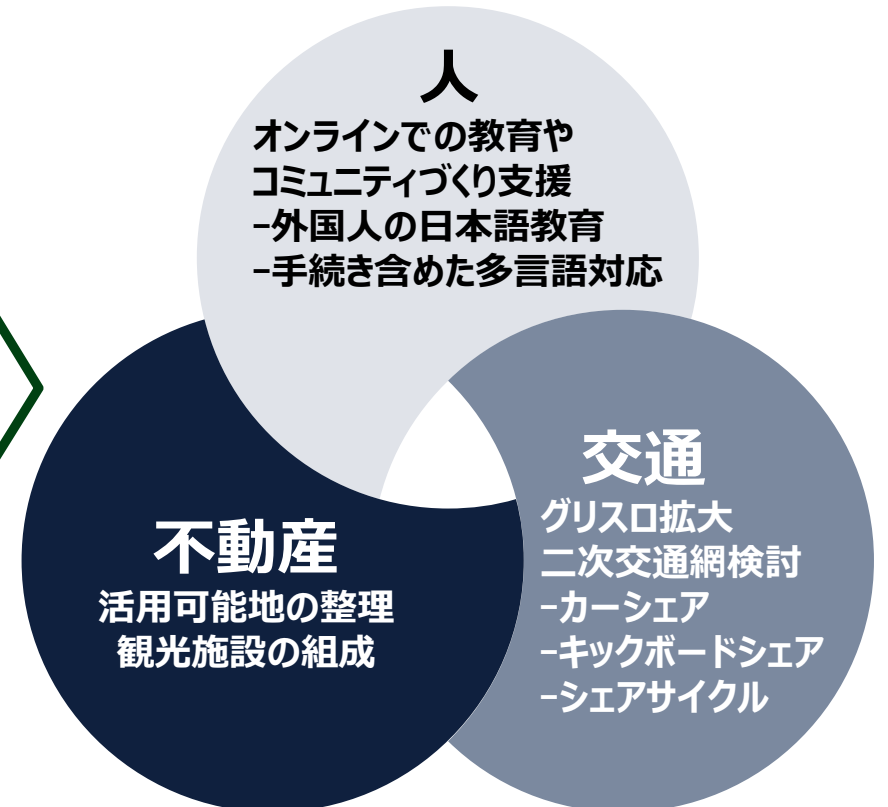
漁協の維持、観光資源の充実化

- ・ 焼津港の人員不足解消による入港船/水揚げ量の増大
- ・ さかなセンターの建替え移転、海や港を活かした施設設置とイベントコラボ、PR

産業活性化や交通網整備

- ・ 地元住民や企業間交流の促進、焼津ブランドづくり (ミナミマグロ案)
- ・ 駅利用者の支援などでタクシー増大やバス路線の拡充

課題解決に向けたアクション案



現状分析（SWOT分析）

焼津の**立地、資源、愛着心の観点からポテンシャルは高い**が、水産以外の特徴が十分に訴求できていない。今後、若者の移住志向やインバウンド増加の機会を捉え、テクノロジーも活用しつつ、**多様な人の流入を創出していくことが重要**。

	ポジティブ（まちの強み）	ネガティブ（まちの弱み）
内部環境	<ul style="list-style-type: none">・ 焼津が好きな人が多い（焼津愛を育む）・ 水産業や加工・製造など関連産業の集積・ 交通アクセスがよい・ 観光資源が豊富・ 外国人労働力の増加・ 土地が安い・ 基盤導入済、ICT積極推進 <p>強み（S）：より伸ばす</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 焼津のよさをPRできていない・ 焼津漁港の水揚げ量減少（人員不足や不祥事の影響）・ 交通手段が少ない、道路整備が不足・ 観光資源を活かせていない・ 外国人人材の対応策が不十分・ 活用地不足（調整区域や農地）・ デジタル人材の育成・ 地域コミュニティの場が不足 <p>弱み（W）：弱点克服</p>
外部環境	<ul style="list-style-type: none">・ 地方移住やUターン就職の増加・ 訪日外国人・インバウンド観光客の増加・ テレワークの普及・ 技能実習制度の見直し・ 若者の価値観多様化、情報収取方法の変化 <p>機会（O）：別方法模索</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 少子高齢化、労働人口減少、税収減少・ 市内事業所・工場の市外移転・ 周辺自治体での宅地開発・ ふるさと納税制度の見直し、競争激化・ 東海地震の発生等、大規模自然災害 <p>脅威（T）：問題事態回避</p>

職員ワークショップ（実施日：8/1 9:30-17:00）



約30名が出席し、焼津市総合計画の6つの政策分野ごとに意見交換を行い、最終的に**47件**の住民サービスアイデアを導出。一層のデジタル化や情報連携を行い、各政策分野ごとのありたい姿の実現を目指す。

参加者（職員）の課題認識

焼津市の完全デジタル化への壁を越える

- ・高齢者、生活保護世帯など要支援者のデジタル化をいかにフォローするか
- ・医療機関、介護施設、学校等、市役所と情報のやり取りがある組織のデジタル化の遅れ

さらなる情報連携、情報発信、情報提供

- ・庁内に点在している情報（健康、医療、福祉等）を一元化し、データ利活用へ
- ・浸水、工事、ゴミ、河川、などをできるだけリアルタイムに、地図で情報提供

多様なニーズとシーズのマッチングの仕組み

- ・困りごとのある人をいかに顕在化し、助けたい人とマッチングするか
- ・保育士、土地、商店街店舗物件、企業、困り事、などあらゆるところにマッチングで解決できる機会が存在

各政策分野ごとのありたい姿

健康・医療・福祉

だれもがカンタンにつながり、健康ですごせるまち

- ・みんなが誰かと繋がる
- ・健康状態の把握
- ・健康づくりに挑戦
- ・医療情報の見える化

子育て・教育

スマートシティ焼津で育ちました～焼津愛を添えて～

- ・子育て環境の充実
- ・行政サービスの充実
- ・地域の繋がりがあがる
- ・焼津愛をはぐくむ

生きがい・文化・スポーツ

リアルとデジタルで生きがい交流できる優しいまち

- ・快適な環境づくり
- ・生きがい・交流の促進
- ・サービス無償化への取り組み
- ・デジタル・技術の活用

産業・観光

にぎわいがあり安全・快適に暮らせる産業観光のまち焼津

- ・にぎわい活気
- ・安全かつ快適な移動
- ・産業観光を発信
- ・焼津ならではの創出

防災・都市・環境

デジタルによる便利でありながらも人と人がつながる未来都市を創造

- ・手続きデジタル化、AI活用
- ・地域コミュニティ活性
- ・市民にメリットのある監視
- ・交通の利便性向上

市民協働・DX・行政運営

一人ひとりがハッピードラえもんシティ

- ・仕事のやり方
- ・家庭生活の利便化
- ・パーソナルデータの利活用
- ・手元でできる行政手続き

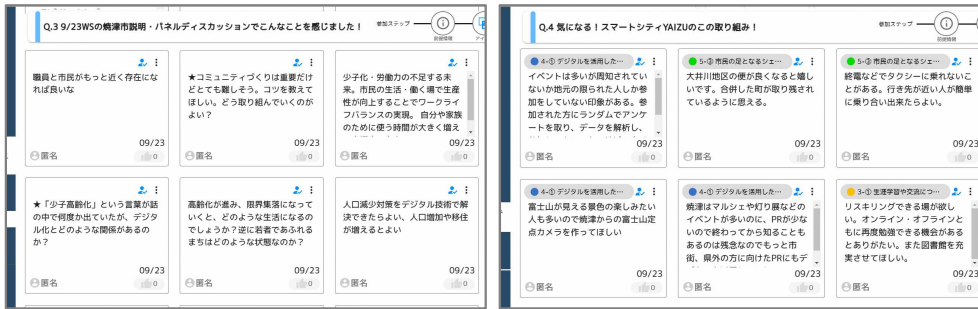
市民ワークショップ（実施日：9/23 10:00-12:00）



参加者：焼津市民や焼津市に通勤通学する方約30名
 静岡大学情報学部）杉山教授にもご出席いただきパネルディスカッション等実施
 スマートシティYAIZUの取り組みについて市民周知、また意見交換/意見収集実施



住民参加型PF「Liqid」を活用▶



参加者募集 スマートシティ YAIZU 市民ワークショップ

対象 市内に在住または、通勤・通学している 16 歳以上の人（中学生を除く）
 ※ 18 歳未満の人は保護者の同意が必要です。
 日時 9/23 (祝) 10:00 ~ 12:00 (開場 9:40)
 会場 市役所 本庁舎 1 階 会議室 1B
 内容

- スマートシティについて「理解を深める」
- スマートシティで実現できる「理想や夢の暮らしを想像する」
- スマートシティで取り組む「施策を考える」

 申込方法 9/18 祝までに申し込みフォームで申し込む
 定員 30 人



申し込みフォーム▶

焼津市では、「デジタルによる、豊かで快適な新しい暮らしの実現」を目指し、「スマートシティ YAIZU」を推進しています。今年度「スマートシティ YAIZU 推進方針」を策定するにあたり、デジタルを活用した新たな施策のアイデアを伺う市民ワークショップを開催します。
 問合先 DX 推進課 ☎626-9414

アイデアはオンラインでも募集中！

意見投稿オンラインツール「Liqid」で、スマートフォンやパソコンからご自身のアイデアや意見を投稿することができます。
 ※投稿にはアカウントの登録が必要です。
 ※ご意見は市民ワークショップや、推進方針策定の際の参考にさせていただきます。



Liqid▶

課題と施策の方向性 各政策のコンセプト案、施策案

課題と施策の方向性 ①健康・医療・福祉

ヒアリングやアンケートから抽出された主な課題（職員・市民・事業者）

- ・健康マイレージサービスの進化
- ・市立総合病院のデータ連携
- ・市立総合病院の地域コミュニティ化
- ・高齢者・障がい者のデジタルバйд対策
- ・市民アンケート期待分野：健康医療（1位）、介護福祉（2位）
- ・高齢者以外の社会福祉充実

ワークショップで出た課題

- ・職員のデジタルスキル向上と市民周知・理解
- ・デジタル化推進の人材育成
- ・引きこもり数や食生活などの市民の生活実態把握
- ・医療機関とのやり取りデジタル化
- ・健康・医療・福祉の情報一元化し重層的な支援実施
- ・民間事業者との連携強化

目指すべきありたい姿

- ・いつでも健康状態を把握できる。健康づくりや介護予防の取り組みや頑張り度が可視化され、特典が付与される。
- ・医療機関のオンライン予約ができる。外国人の方も不自由なく医療にアクセスできる。健診や予防接種の空き状況がわかる。
- ・みんなが誰かと繋がっている。高齢者がマッチングアプリを使ったりシェアハウスに住んでいたりする。
- ・おともだちロボットがいる。自分に必要な支援がすぐに受けられる。

施策案

だれもがカンタンにつながり、健康ですごせるまち

- ① AIやパーソナルデータを活用した市民の健康づくり支援
- ② 社会的孤立や健康不安解消のための「つながる」仕組みづくり
- ③ 高齢者や助けが必要な方をデジタルで見守る新たな取り組みの実施

課題と施策の方向性 ②子育て・教育

ヒアリングやアンケートから抽出された主な課題（職員・市民・事業者）

- ・ 相談業務（相談履歴や相談記録）のデジタル活用
- ・ 学校・保育施設と保護者間連絡のデジタル化、個別通知のデジタル化
- ・ 小中学校の全教室のWifi整備、デジタルを活用した学習の拡充
- ・ 建物施設情報のデータベース化
- ・ 保育園の充足（保育園不足で子ども預けられず働けない）
- ・ 郷土愛の醸成

ワークショップで出た課題

- ・ 待機児童の解消、保育士の確保（離職した保育士マッチング）
- ・ 外国人児童の受け入れ促進、おたより多言語化
- ・ 保育園空き状況の自動通知
- ・ 平日夜間や休日の相談対応
- ・ 保護者との連絡手段オンライン化、放課後児童クラブ給食提供（オンライン注文）
- ・ 学校をはじめとしたWi-Fi環境整備（家庭ごとの学習環境平準化）

目指すべきありたい姿

- ・ オンラインでの申請や相談受付が可能で24時間365日いつでも相談できる。すべての家庭でオンライン環境が整っている。
- ・ 事件/事故の心配なく登下校ができる、共働き家庭の子が安心して過ごせる放課後の居場所がある。
- ・ 地域の方が学校に入り子どもたちの学びにも関わっている。子育て世帯が困ったときに地元で頼れる人がいる。
- ・ 焼津のよいところの情報が身近な場所で手に入る。子どもたちが自分たちの学びを世界に発信する。焼津出身者が焼津のために尽くす。

施策案

焼津で育つことに安心と誇りを持てるまち

- ① GIGAスクール構想実現に向けた学習環境整備
- ② 安心して子育て・教育ができる連絡相談手段のオンライン化
- ③ 焼津のまちを学べる地域デジタルコンテンツの充実

課題と施策の方向性 ③生きがい・文化・スポーツ

ヒアリングやアンケートから抽出された主な課題（職員・市民・事業者）

- ・ 地域交流センターの有効活用と利用率向上
- ・ デジタル講座やデジタル回覧板の検討
- ・ 小泉八雲のブランド化
- ・ デジタルアーカイブの推進
- ・ 施設予約システムの運用見直し
- ・ スポーツのきっかけづくりや仲間づくり支援

ワークショップで出た課題

- ・ 市主催イベントの参加者が少ない（特に若者の参加者が少ない）
- ・ 施設状況の見える化が必要
- ・ 職員や市民のデジタル化の遅れ解消
- ・ メタバースなどデジタル空間を活用したイベントや資料閲覧の実施
- ・ 自宅にいながら手続きや活動ができる仕組みづくり（選挙のデジタル化など）
- ・ 多世代交流できるコミュニティづくり

目指すべきありたい姿

- ・ 市役所に行かずに家にいながら各種手続きや活動ができる。仮想空間上でスポーツや歴史資料などが楽しめる。
- ・ 子どもが元気いっぱい外で遊ぶ。市民が快適にスポーツを楽しめる。海釣りや山登りなどがどんな人でも楽しめる。
- ・ 高齢者や同じ趣味の人が気軽に集える場所や世代を超えて交流できる場所がある。
- ・ 若者が焼津に集まり、住みたいと思えるまちづくりがされている。

施策案

デジタルを活用して生きがい交流できる優しいまち

- ① 生きがいづくりや交流につながる焼津ならではのオンラインコンテンツの充実
- ② 社会参加型の生きがいマッチングサービスの実施
- ③ デジタル活用をサポートする地域デジタルステーションの設置
- ④ 対面交流を促進する文化・スポーツ施設の利便性向上

課題と施策の方向性 ④産業・観光

ヒアリングやアンケートから抽出された主な課題（職員・市民・事業者）

- ・ 駅前活性化、さかなセンターの移転・建替
- ・ 海や漁港、魚食を活かした観光コース立案、観光案内人の設置
- ・ 点在する観光施設への移動手段確保（グリスロ拡大やシェアサイクル等）
- ・ ビジネスマッチングなど企業間交流、焼津ブランド価値向上（ミナミマグロ案）
- ・ ふるさと納税データの活用、地域ポイント・地域通貨の検討
- ・ 事業用地の確保、商業施設や大学、スタートアップ企業等の誘致

ワークショップで出た課題

- ・ 市内外企業のマッチングによる地場産業の強化・拡大
- ・ 外国人技能実習生の受入拡大による人手不足解消
- ・ 移動手段確保に交通利便性向上（乗車コラボ企画）
- ・ 産業観光をメインとしたコンテンツ作り、焼津ならでの名産品や体験価値付与
- ・ 市内土地活用の規制緩和、物件や土地のマッチング促進
- ・ イベントの集約・周知による賑わい創出

目指すべきありたい姿

- ・ 焼津駅から内港/外港の人通りが増える。観光客が多くにぎわいのあるまちづくり。6次産業化のまちとして確立。
- ・ 焼津ならでの食や文化体験をデジタルも活用しながら提供する。SNSで焼津がバズる。
- ・ シェアサイクルなどの拠点がたくさんある、快適・安全に移動できる。
- ・ デジタルを活用して人手不足を解消する、焼津版おてつたび（観光×お手伝い）の実施。

施策案

にぎわいがあり快適に暮らせる豊かな地域産業のまち

- ① デジタルを活用した焼津ならでの特産品販売や体験コンテンツの提供
- ② 各施設を結び快適に移動できる交通サービスの充実
- ③ 新規事業・イノベーションの創出やそれを可能にするプラットフォームづくり

課題と施策の方向性 ⑤防災・都市・環境

ヒアリングやアンケートから抽出された主な課題（職員・市民・事業者）

- ・ 統合GISの推進、災害・避難情報発信の効率化、被災者支援システム更新
- ・ 空き家管理のデータ活用、空き家利活用検討
- ・ 建物管理や、ごみ集積所・不法投棄場所の管理などデジタル活用
- ・ 交通量・人流計測データ活用
- ・ 道路整備、ユニバーサルデザインの推進
- ・ ミニステーションの全日開放や回収物拡大、喫煙禁止エリア検討

ワークショップで出た課題

- ・ ごみ分別のAI活用、ごみポイ捨て監視、ごみの自動収集
- ・ 混雑や工事、浸水被害による道路状況のリアルタイム通知
- ・ 河川や水路の異常検知とWeb情報開示
- ・ 焼津の新たな魅力場所創出（賑わいの場、レクリエーション施設等）
- ・ 交通手段の多様化、駐輪場不足解消、赤字バス路線解消
- ・ 災害時パトロールの安全性確保

目指すべきありたい姿

- ・ カメラ活用など災害時パトロールの安全性向上。最適な避難所案内・災害情報が3Dで可視化される。
- ・ 周回する自動運転バスが走行している。交通弱者向けの小型タクシーなど交通手段が充実している。GPS活用で位置情報が把握できる。
- ・ 気象及び洪水予測の高精度化、浸水被害の低減、喫煙/非喫煙エリアの調整、都市機能を集約した拠点づくり。
- ・ 道路河川の異常検知システム導入、ごみのポイ捨てを監視する取り組み、AIを活用したごみの分別やごみ量計測の実施。

施策案

人と人がつながり未来を創造し続けるまち

- ① デジタルを活用した防災・減災対策の高度化、災害予測の高精度化
- ② 地図データ基盤整備によるまちの可視化
- ③ 市民の足となるシェアサイクルや自動運転バスなど交通手段の拡大
- ④ データ駆動型のまちづくりや環境負荷低減施策の実施

課題と施策の方向性 ⑥市民協働・DX・行政経営

ヒアリングやアンケートから抽出された主な課題（職員・市民・事業者）

- ・ 申請業務やマニュアル等のデジタル化、オンライン相談の実現
- ・ 自治会の境目を示したデジタル地図の作成、電子回覧板による自治会員の負担軽減
- ・ まちづくりコーディネーターの育成
- ・ 通訳・翻訳業務のデジタル活用
- ・ 広報誌やSNSコンテンツの質向上、アイデア出しのAI活用
- ・ 若者の集まるまちづくり、出会いの場提供や結婚率上げる取組

ワークショップで出た課題

- ・ 通信網や5Gなどデジタルインフラ整備
- ・ 庁内システムの統一や情報の見える化、共有連携の推進
- ・ 市民への端末貸与やデジタルリテラシーの向上
- ・ 多様性の受け入れ、男女共同参画意識向上
- ・ 職員の市民協働意識向上
- ・ パーソナルデータの利活用

目指すべきありたい姿

- ・ 縦割り行政の見直し。庁内コミュニケーションの円滑化。部署関係なく働くことができる。兼業できる。
- ・ 市役所に行かずに家にいながら各種手続きや活動ができる。誰でも使える多言語翻訳サービスがある。
- ・ 自分の行政情報が簡単に見れる/使える。自分に合ったお知らせが届く。地域電子掲示板がある。
- ・ 市民活動に興味関心をもってもらい活動を活性化させる。データに基づいた政策決定がされている。

施策案

一人ひとりが幸せを感じるまち

- ① 市役所内の業務最適化・連携強化による市民サービスの向上
- ② オンライン手続きの拡充
- ③ 個人や地域に最適化した情報発信
- ④ 対面とデジタルの「ハイブリッド型」の市民協働推進

【全体コンセプト】 デジタルによる、豊かで快適な新しい暮らしの実現

【共通する取り組み】
データ連携・活用、デジタル人材の育成、不慣れな方への配慮

【各政策コンセプトと施策案】

1. スマートシティYAIZUで実現する

だれもがカンタンにつながり、健康で過ごせるまち

(健康・医療・福祉)

- ① AIやパーソナルデータを活用した市民の健康づくり支援
- ② 社会的孤立や健康不安解消のための「つながる」仕組みづくり
- ③ 高齢者や助けが必要な方をデジタルで見守る新たな取り組みの実施

2. スマートシティYAIZUで実現する

焼津で育つことに安心と誇りを持てるまち

(子育て・教育)

- ① GIGAスクール構想実現に向けた学習環境整備
- ② 安心して子育て・教育ができる連絡相談手段のオンライン化
- ③ 焼津のまちを学べる地域デジタルコンテンツの充実

3. スマートシティYAIZUで実現する

デジタルを活用して生きがい交流できる優しいまち

(生きがい・文化・スポーツ)

- ① 生涯学習や交流につながる焼津ならではのオンラインコンテンツの充実
- ② 社会参加型の生きがいマッチングサービスの実施
- ③ デジタル活用をサポートする地域デジタルステーションの設置
- ④ 対面交流を促進する文化・スポーツ施設の利便性向上

4. スマートシティYAIZUで実現する

にぎわいがあり快適に暮らせる豊かな地域産業のまち

(産業・観光)

- ① デジタルを活用した焼津ならではの特産品販売や体験コンテンツの提供
- ② 各施設を結び快適に移動できる交通サービスの充実
- ③ 新規事業・イノベーションの創出やそれを可能にするプラットフォームづくり

5. スマートシティYAIZUで実現する

人と人がつながり未来を創造し続けるまち

(防災・都市・環境)

- ① デジタルを活用した防災・減災対策の高度化、災害予測の高精度化
- ② 地図データ基盤整備による焼津の可視化
- ③ 市民の足となるシェアサイクルや自動運転バスなど交通手段の拡大
- ④ データ駆動型のまちづくりや環境負荷低減施策の実施

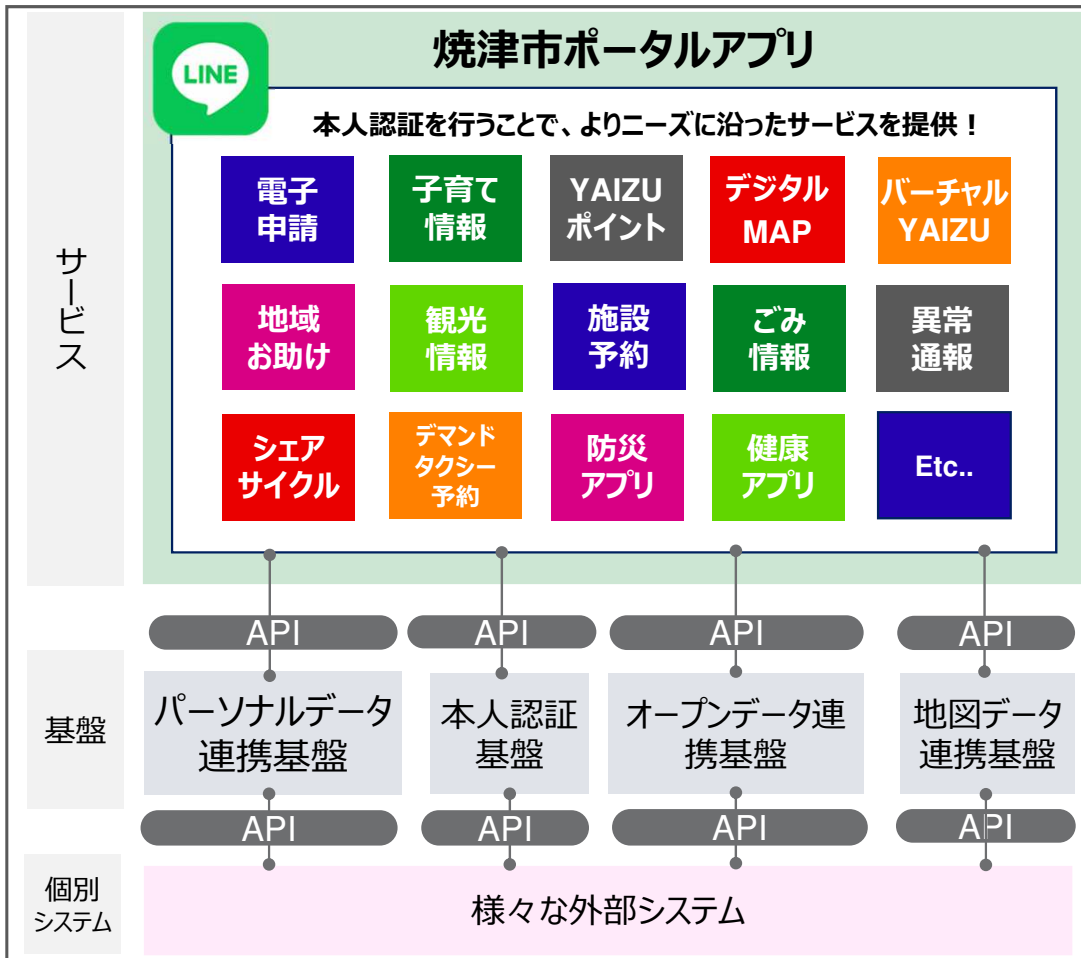
6. スマートシティYAIZUで実現する

一人ひとりが幸せを感じるまち

(市民協働・DX・行政経営)

- ① 市役所内の業務最適化・連携強化による市民サービスの向上
- ② オンライン相談や手続きの拡充
- ③ 個人や地域に最適化した情報発信
- ④ 対面とデジタルの「ハイブリッド型」の市民協働推進

(参考) スマートシティYAIZUが目指すサービスのあり方 (イメージ)



個別にサービスを作るのではなく
データを共有・連携できる仕組みを作り
一体のサービスとして利用者に提供する

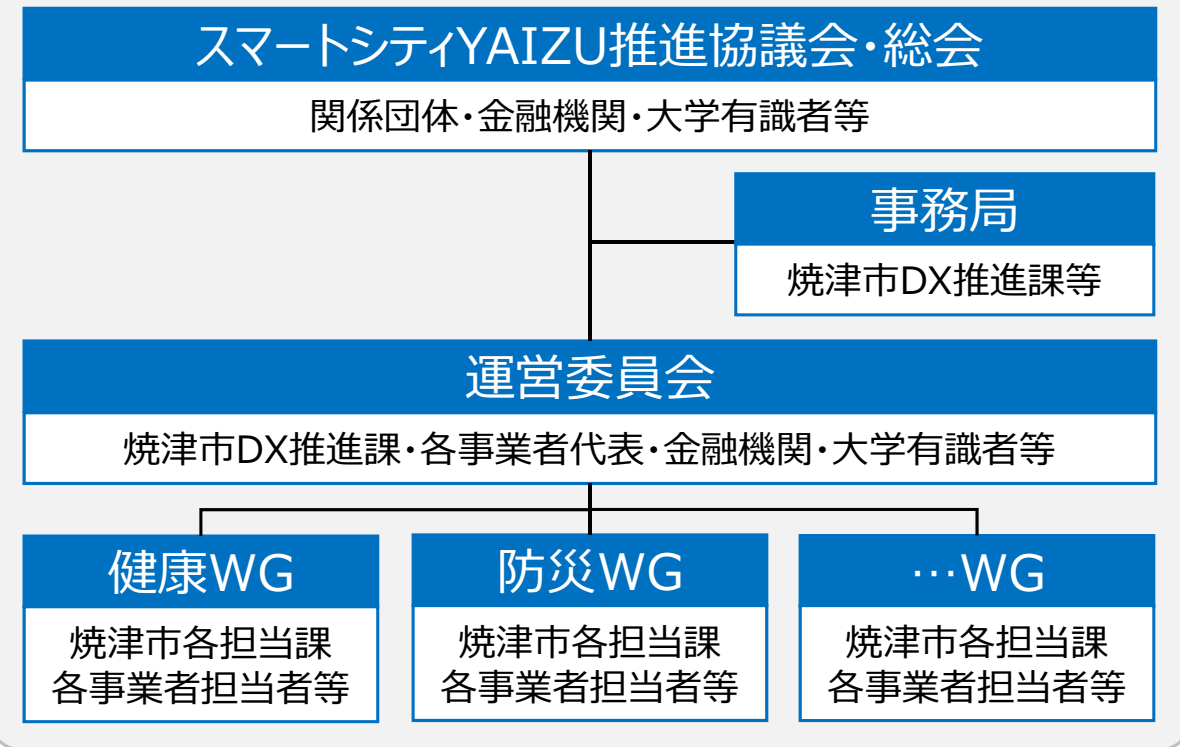


＜意見交換＞
目指すべきスマートシティ推進体制について

今後の推進検討会の方向性

- ✓ 既存体制を組み直し、推進協議会としてリニューアルを想定

イメージ案



協議会・総会

- (年数回開催)
- ・全体計画や体制意思決定等

事務局

- ・各調整、公募手続き、情報発信等

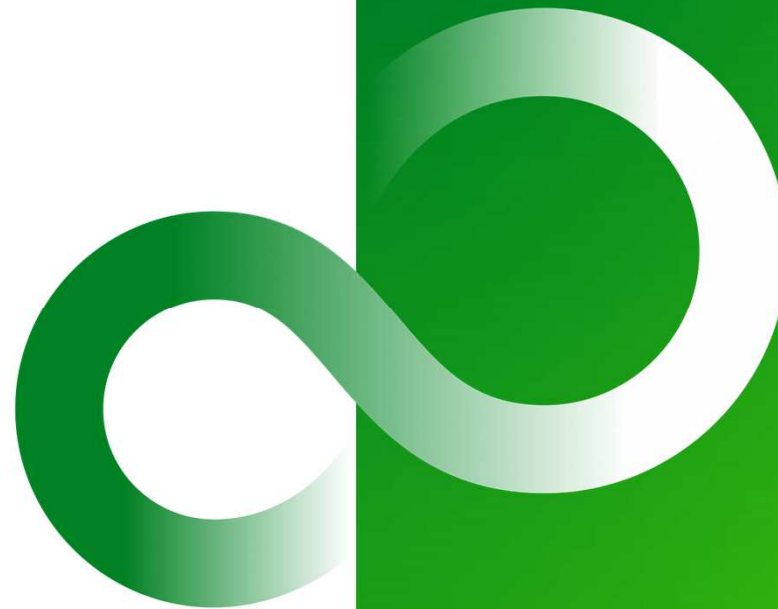
運営委員会

- (毎月開催)
- ・プロジェクトの評価、事業決定等

WG

- (適時開催)
- ・プロジェクトの提案・推進

Thank you



FUJITSU